

# 冬春期長雨・日照不足

## 4月

### 水 稲

- 1 早生水稻の育苗については、徒長しないように温度や水管理等に注意する。伏せ込み期間を長くしすぎないようにし、多かん水は避ける。

### 麦 類

- 1 湿害による根腐れや、これに起因する登熟不良等が発生しやすいので、ほ場内の排水溝の整備、停滞水を落水口まで誘導する等、積極的な排水対策に努める。
- 2 開花期以降に高温多雨となった場合には、赤かび病の発生が懸念されるので、防除を徹底する。第1回目の防除適期は開花始めであるが、降雨によってできていない場合は雨が上がり次第、速やかに実施する。

### 茶

- 1 排水不良園や滞水する箇所では根腐れ等の過湿障害の発生が懸念されるので、排水を徹底する。

### 野 菜

- 1 長雨寡日照により湿害や軟弱徒長の生育をしている野菜が多い。このため今後、天気回復があっても病害の多発が心配されるため、病害対策を実施することが大切である。  
風通し、日当たりが悪いと病害が発生しやすいので、株元の重なっている葉の除去に努める。  
べと病、灰色かび病、炭疽病等の病気が発生しやすい状態になっている。被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することが重要である。そして、雨の間の晴天日に、適期防除に努める。雨天後は、葉茎が軟らかく、葉害が発生しやすいので、基準内の薄い濃度（例：2,000～3,000倍の場合、3,000倍）で散布する等、注意して薬剤散布を行う。施設では、曇雨天が続く場合、くん煙剤を用いて防除を行う。また、日中、換気しながら暖房機を運転するなどして、除湿に努める。  
栽培中の場合、水が溝にたまった状態になると根腐れが発生しやすいので、排水を徹底する。
- 2 施設野菜では、降雨後の晴天で、急激な根の水分変化に対応できないため、極端な萎れや生長点等の焼けが発生しやすくなる。萎れ、生長点等の焼け防止のため、雨の日でも土壤水分を確認し乾燥しているようであれば、午前中に適量かん水を行うとともに、施設を閉め切らず、サイドや入り口を開放して風通しをよくし、多湿状態にならないよう管理する。雨天後の晴天日は、早朝に適量のかん水を行うとともに、施設内の温度が急激に上昇しないよう、早朝、7時ごろから徐々に、サイドや谷等を開放する。また、施設周りに排水溝を掘り、施設への水の流入防止に努める。
- 3 果菜類では、曇雨天が続くと開花、結実がスムーズに進まない。草勢が弱りやすいので、摘花や摘果等を行い、着果負担を軽減し、葉面散布剤を散布し、草勢回復に努める。
- 4 露地栽培のほ場準備では、ほ場の乾きが悪く水がたまっている場合は、ほ場全体の耕うんはせず（耕うんすると土壤に水を含み一層乾きにくくなる）、排水溝を設置して（約5mおきの溝、ほ場周りの溝、落とし口つなぐ溝等）積極的な排水対策を行う。落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。  
耕うん可能なほ場条件になってから、耕うんし、畝はできるだけ高畝にする。すぐに定植しない場合は、基肥を施用してマルチングをすると雑草防止、土壤表面のしまりを防止できる。ほ場周りに排水溝を掘り、畝が30m以上になる場合は中溝をつくるなど排水対策を行う。
- 5 定植後、活着を促すために株元かん水を行う。栽培中のかん水は土壤に十分水分を含んでいる場合、水分過多になると徒長気味に生長し、根の張りが悪くなるので、土壤水分が多くならないように土壤水分を確認しながらかん水を行う。（今年は、地下水位が高い状態である。）
- 6 育苗管理では、育苗培土の湿りを確認し、午前中のかん水を実施し、夕方、育苗培土が乾き気味になるようにかん水を行う。

## 果 樹・オリーブ

### 1 長雨排水対策

土壌の過湿に対する根の水分ストレスを少なくするため、十分な排水対策を講じる。  
ハウス栽培も周囲の排水に努め、外部からの水の流入を防ぐ。

### 2 日照不足対策

#### 1) ハウス栽培

①ビニール被覆によって光の投下量が減少しているため、加温栽培など2重被覆を行っている作型は、晴天日に内張りを巻き上げ、日射量を確保する。

②加温栽培では、軟弱徒長気味の新梢は適宜摘心を加え、不必要な枝をかぎとって結果枝の日照量を確保する。(ブドウ)

③新梢が軟弱に生育しているため、農薬散布は高温時を避け、換気をしながら散布する。

#### 2) 露地栽培

①開花期にあたるナシは、蜂の飛来が少なく、受粉不良が考えられるので、雨の間を見計らってていねいに人工受粉を行う。

②展葉・伸長速度が鈍くなるので、初期葉数確保のため、芽かぎは慎重に行う。

③モモのせん孔細菌病、カキの炭疽病、灰色カビ病(果樹全般)等、多雨多湿によって病害の発生が懸念されるので、防除を十分に行う。

④窒素主体の液肥による葉面散布により葉色回復と新梢伸長の均一化を図る。

## 花 き

寡日照により全ての花き類は軟弱徒長になる。

また長雨は、土壌の過湿による根腐れや立枯性病害の多発、雨滴等による茎葉の過湿は灰色かび病等各種病害の多発が予想されることから、次の対策を実施する。

### 1 施設内管理

1) 昼間は十分に換気を行う。雨天時には、換気扇による換気、温風暖房機による間断送風等を強制的に行う。

2) かん水は必要最小限に止め、こまめに行う。また、株元にかん水し、植物体に掛けないようにする。

3) 農薬による防除はできる限り燻煙、煙霧等を取り入れ、噴霧器による薬液散布は必要最小限に止める。薬液散布を実施する場合は、施設を密閉するまでに薬液が乾くようにする。

4) 生育や商品価値に支障がない限り、下葉や余分な枝は除去して、通風採光を図る。

5) 罹病部分はできる限り除去し、直ちに施設外へ搬出して処分する。

6) 寡日照が続く中で晴天は、急激な温度上昇による葉焼け、茎折れ等を起こしやすいので、換気等により高温防止を図る。

7) 施設周りの排水を徹底し、内部へ水が入り込まないようにし、根腐れ防止に努める。

### 2 露地栽培の管理

1) ほ場内の水は、外へ排出するために、排水溝を整備する。これから定植する場合は、畝を高くして湿害を防ぐ。

2) 肥料の流亡が予想されるので、葉色等を見ながら追肥を与える。

3) 雨天の間隙をぬってでも、薬剤防除に努め、病虫害の多発を防ぐ。

### 3 品目ごとの管理

#### 1) キ ク

①黒斑病、褐斑病、白さび病等、各種病害が多発するおそれがあるので、風通しをよくするとともに、薬剤による防除を徹底する。

②親株ほ場は、できる限りビニール等で雨よけをするとともに、白さび病等の防除を徹底する。

③雨天、曇天日の電照時間は通常より2～3時間程度長めにする。

#### 2) カーネーション

①軟弱でしかも茎細に育っているため、整芽を徹底する。

②灰色かび病、さび病の発生が予想されるので、防除を徹底する。

#### 3) 草花類

①灰色かび病等の多発が予想されるので、換気と防除を徹底する。

②軟弱徒長に育っているため、かん水はやや控え目にする。

## 畜産

- 1 畜舎内の温度等飼養環境の管理  
天候不順や朝晩の気温差及び隙間風による家畜の体調悪化を防止するため、隙間風の防御、温度管理に努める。
- 2 家畜の健康状態の観察  
家畜の健康状態等の観察を徹底し、変調を認めた場合には、獣医師等への連絡などにより早期対応を徹底し、健康状態の悪化防止に努める。  
家畜の食欲不振、下痢の原因となる腹部の急激な温度変化を避けるため、敷料を十分に使用するなど畜房での急激な温度変化を避けるよう努める。
- 3 畜舎内外の環境整備  
畜舎の周辺や運動場の排水溝の掃除をして排水に努める。  
畜舎内が高温多湿になると、アンモニアガスの発生や雑菌の繁殖が多くなり、家畜に悪影響をおよぼすため、畜舎内の通風と換気に努め、敷料は早めに交換する等して畜舎内の乾燥に努める。
- 4 飼料給与上の注意  
配合飼料及び粗飼料の適正な給与に努める。また、飼槽の清掃に努め、高温多湿による飼料の変敗防止に努める。  
飲用水は、常に新鮮なものが供給できるように努める。  
雨に濡れた水分の多い青刈飼料は下痢、鼓張症の原因となるので注意する。
- 5 ほ場の管理  
飼料作物栽培ほ場の排水に努め、根腐れを防止する。  
刈取り適期の飼料作物や牧草は天候を見て、計画的に刈り取りと、播種予定のほ場の排水に努め、播き遅れのないようにする。